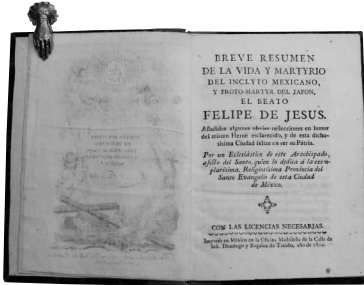


紀にかけてメキシコで活躍したモンテス・デオカという人物によるもので、写真（左重ね）のように嵐の中を進むサン・フェリーペ号も描かれています。

次に *Breve resumen de la vida y martirio del ínclito mexicano, y proto-martyr del Japón, el beato Felipe de Jesús*. (写真) は『日本における最初の殉教者で福者フェリペ・デ・ヘスースの生涯』と呼ばれ、1802年にメキシコシティで発行されたものです。この伝記の著者



は明らかではありませんが、メキシコ市内の教会関係者の手によって書かれたことが記されています。本書の標題紙前の頁には、前年に刊行された銅版の画集と同じ体裁の図版があり、その絵の中には前書の書名と同様の“Vida de San Felipe de Jesús pro tomartir [i.e. proto-martir] dl [i.e. del] Japón”が書かれています。標題紙には一年後の1802年の刊行年が記載されていることから、この伝記は画集と文章編から成っているものと考えられ、本書はその文章編と推測されます。

上記の書物以外に、メキシコやスペインには多くの関係書があります。これはフェリペ・デ・ヘスースが、宣教師を目指す24歳の修道士で、殉教することがわかっていながら希望して捕縛されたことから、彼に対する尊敬の念が一段と高まった結果ではないでしょうか。

■太閤、強硬な姿勢の反面、贈られた「象」を喜ぶさて、話は戻ります。フェリペ・デ・ヘスースらが殉教した翌年の邦暦基準で慶長二（1597）年二月から、二度目となる朝鮮出兵「慶長の役」が始まりました。太閤はサン・フェリーペ号の司令官ランデーチョの意をくみ、三月に船体を修理して⁽⁴⁾生存者と共にマニラに戻させました。マニラではこの事件の報告書が作られ、同地からドン・フランシスコ・テーリヨ総督の特使が、

事件への抗議と共に没収物と殉教者の遺骸の引き渡しを求めた書簡を携えて来日しました。しかし、太閤は返書⁽⁵⁾の中でキリスト教徒の処刑を禁教令下の誅戮としてその正当性を述べ、フランシスコ会の布教をもつての謀略的な異国征服の企てと厳しく指摘しながら、反面ではこの時贈られた生きた本物の「象」に対して念の入った感想と謝辞を述べるなど、政治性の高い駆け引きを展開しています。また、総督が望んだ殉教者の遺骸の返還については、内外のキリスト教徒に持ち去られており、断念する他は無かったようです。ただ、フェリペ・デ・ヘスースの遺骸は、「遺骨はメキシコに送られたが、革命時に行方不明となった」⁽⁶⁾ともされています。

マニラではこの後、フランシスコ会系の人物が著した書物によって、日本の対応や我が国に滞在するイエズス会に対する非難の声が強まるにつれ、フェリペ・デ・ヘスースをはじめとする殉教者への尊敬の念はメキシコやキリスト教国で更なる高まりを見せたことを松田博士は指摘しています。

翌、慶長三（1598）年八月十八日、太閤秀吉も永遠の眠りにつき、この事件は日本人の記憶から次第に遠ざかって行ったようです。

それから十一年を経た慶長十四（1609）年、「サン・フランシスコ号」が房総沖で難破しました。この「サン・フェリーペ号」の事件の経緯と内容を知り尽くしていた徳川家康は、二度と同じ轍を踏むことはありませんでした。それどころか、これを絶好の機会と捉えてメキシコとの交易を模索することになるのです。

註

- (1) 邦暦は12月8日に改元されている。
- (2) 松田毅一著「秀吉の南蛮外交—サン・フェリーペ号事件」新人物往来社1972年、278頁。また、同書の254・258頁では、この件についての他の学説も紹介している。
- (3) 塩田睦「フェリーペ・デ・ヘスース・カサス・マルティネス」（『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局、1986年、1243頁所収。）
- (4) 結城了吾氏は、モルガという人物の「船は帰らなかった」とする記録に基づき、生存者は長崎で「ポルトガル人などの援助によって一隻の船を作らせ、もう一隻古い船を買って、マニラに戻った」との説を述べる。（結城了吾「サン・フェリーペ号漂着事件と二十六聖人の殉教」サン・フェリーペ号浦戸漂着四〇〇年実行委員会編『運命の船 サン・フェリーペ号』南の風社、1998年、20頁所収。）
- (5) 松田前掲書286頁。著者がローマのイエズス会文書館で発見したものの。原文は榎並助衛門という人物による漢文の写し。
- (6) 結城了悟「フェリーペ・デ・ヘスース」（『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、1192頁所収。）

おく まさよし（司書・事務長兼管理運営課長）